

平成20年度 第4回坂東市補助金等検討委員会（会議要旨）

1. 日 時 平成21年2月6日（金）午前9時～11時

2. 場 所 岩井庁舎 3階会議室（大）

3. 出席者

（1）委員

委員長 大澤 義明

委 員 野口 次男、石塚 陽子、遠藤 裕子、坂巻 喜好、伊東 明彦

（2）事務局

企画部長 山口 高男、企画調整課長 塚原 一雄、行政改革推進室長 前澤 達也

行政改革推進室 椎名 晃久、樋口 佳美

（議事）

（1）平成21年度 補助金等予算額（見込）について

（2）先進自治体の視察について

（3）その他

（会議資料）

- ・ 資料1 平成20年度 第3回坂東市補助金等検討委員会（会議要旨）
- ・ 資料2 平成21年度予算要求書（補助金等）の再提出について
- ・ 資料3 平成21年度 補助金等予算額（見込）について【総括】
- ・ 資料4 平成21年度補助金等予算額（見込）について【中間提言対応分】
- ・ 資料5 補助金等からの計上替（47件）について【中間提言対応分】

【検討委員会での意見等について】

【企画調整課長】

それではここで、山口企画部長からご挨拶を申し上げます。

【企画部長】

朝からご苦労さまです。本来ならば市長がご挨拶を申し上げるところですが所要のため。また、副市長の野口が13日付けで辞表を提出ということがございまして、企画部を担当しております山口が代わりましてご挨拶を簡単に申し上げます。

10月の各補助金の事業のヒアリングを実施していただいた後、各課の要求状況も含み、課題の点が市長の判断、ヒアリングを行いながら、21年度予算につきましては、それぞれ、この後、ご報告申し上げますが、決定させていただいているといった状況でございます。

今後も引き続き見直しを図って、Dランクについては2年間で廃止というような方向も打ち出しておりますので、宜しくご協議の方をお願いしたいと思います。

なお、本日午後、我孫子市さんの視察ということで、宜しく願い申し上げます。

こういう中で、皆さんのご意見を賜りながら着実に行革の推進を図って、それぞれ厳しい財政状況の中ではありますが、国あるいは県の施策と連動しながら、市の財政を持続ある行政運営を続けていきたいと考えておりますので、本日は宜しく願い申し上げます。

簡単ではありますが、ご挨拶に代えさせていただきます。

なお、本日、2次補正の関連、定額給付金の問題等所用がございまして、この後、議事に入りましたら退席させていただきますので、宜しく願い申し上げます。

【企画調整課長】

それでは、議事進行について大澤委員長をお願い致しますと思います。

【大澤委員長】

皆さんおはようございます。朝早くからご苦労さまです。今年最初の委員会となっております。

内容は2です。1つは、21年度の補助金の予算について。2つめは我孫子市の視察。我孫子市さんの補助金に関しては日本でもトップ。最初に公募制を入れたということや残金処理というシステムもあり、そういうところも勉強になると思います。

視察は午後ですので、11時までには会議を終えたいと思います。

それでは、最初に事務局の方から、ご説明をお願いしたいと思います。

【資料の説明】資料1

【事務局】

資料1「平成20年度 第3回坂東市補助金等検討委員会（会議要旨）」でございます。前回、補助金のヒアリング等を実施いただきました時の会議要旨です。

【資料の説明】資料2

【事務局】

資料2につきましては、「平成21年度予算要求書（補助金等）の再提出について」ということで、市長名による各所属長宛の指示文章でございます。

10月23日の補助金ヒアリングの結果、各所管課による補助金の見直しの努力の成果がまったく見られていないということもございまして、市長から意識を持って見直しをするようにという形の文章が出されたものです。

内容としましては中段にありますように、平成21年の予算積算については補助金等交付基準及び交付要綱に基づき行われたはずであるが、補助事業の積算根拠もなく単に昨年同様とするものや、費用対効果が不明確なものが多数見受けられるとともに、検討委員会による再度のヒアリングの結果からも、昨年来の指摘事項が十分に反映されておらず、本来あるべき行政改革としての効果は十分ではないと判断するものである。よって、平成21年度予算要求書（補助金等）の再提出を指示する。とした形で指示をした所でございます。

再提出にあたっては補助金の見直しの出発点に立ち返り、平成19年9月に検討委員会から提

言がなされたランク別の評価、これを原則とするとの形で市長から提出をしております。

なお、Dランクについては21年度の廃止が困難なものについては、2か年に分けて、2か年で廃止をするとの形の方向を出しております。

最後のまとめとしまして、職員一人一人が行政改革に対する当事者意識を強く持ち、各種補助団体等への指導を含め、補助金の見直しによる効果が十分発揮されるよう、精一杯努力されたい。という形で、補助金の見直し、そういったものについての職員の意識を十分に持って、この見直しにあたってもらいたいと、市長の方から各所属長宛に文書を出しております。

【資料の説明】資料3

【事務局】

資料3「平成21年度 補助金等予算額（見込）についての【総括】」につきましては、先ほどの市長からの再提出の指示を受けまして、中間提言にていただいたランクを基準に、各課が再提出した内容をまとめたものです。

予算額の推移、当初予算の比較（合計）ですが、平成18年度の8億5,353万7千円が21年度の見込額で6億3,902万5千円となり2億1,451万2千円の減となっております。現在、予算編成中ですので見込とした表示をさせていただいております。

補助件数につきましては、18年度の238件が平成21年度では138件、ちょうど100件の減となっております。

金額及び件数の内訳につきましては、後ほど説明させていただきたいと思っております。

参考として、一般会計補助金の状況を近隣4市の平均と比較しております。平成18年度の決算額ベースでは歳出予算総額に占める補助金の割合が4.1%。近隣4市の平均は3.0%でした。平成21年度の当初予算の総額を昨年同様の178億8千万円に想定すると、構成率は約3.15%となり、近隣4市の平均に近い数字に下げられていると思っております。

2ページは、見直しの状況です。18年度の審査実施額の対象236件の内、主に市単独補助金174件について審査いただき、AランクからDランクまでのランクを付けていただくとともに、7千8百4万円の削減額という中間提言をいただいております。

21年度当初予算との比較ですが、174件の内、94件が21年度予算へ計上が見込まれています。件数では80件の減、金額の増減率では43.3%の減となっております。

3ページは、当初予算要求の見直しの経過についてです。

前回、10月23日に当初要求のヒアリングを実施していただいた段階では87件、金額で2億4,351万7,966円でした。しかしながら、見直しの成果が現われていないため、市長からの指示により、2億3,215万5千円、94件にて再提出がなされました。

なお、件数の増減内訳としましては、当初要求時の遅延6件、商工関係の小規模補助金ですが、ヒアリングの段階では1つにまとめた形でカウントしていましたが、対比の関係上、18年度同様に戻し再カウントしましたので5件増えております。また、再提出の時点で4件終了されたことにより87件から94件となっております。

【資料の説明】資料4

【事務局】

資料4につきましては、中間提言対応分を21年度予算見込額と対比したものです。

ランク毎にAランクからDランクまで出しております。なお、ランク別の21年度見込額では、合計が2億3,214万円で平成18年度決算額4億965万2,548円と比較すると1億7,751万2,548円の減。削減率では43.3%です。

ランク別では、Aランクは据え置きでしたが49.6%の削減。Bランクは80%相当ですが65.4%の削減。Cランクは70%ですが、増減率では63.7%の減。Dランクは廃止ですが、廃止できなかったものもありましたので、増減率では81%の減。トータルで43.3%の減となっております。

10ページ、増減額の内訳として、下段の枠内ですが、計上替が合計で7,274万3,780円の減となっております。なお、上水道事業会計補助金については、消火栓設置負担分を負担金に計上替。第1次拡張事業分については終了としてそれぞれカウントしております。市観光協会補助金についても計上替と終了にカウントされています。

終了は6,385万7,614円です。事業の見直しの段階で廃止をしたものや実際に該当し

なくなったものなどを含めた形で計上されています。

対象なしについては2件ありますが、補助制度としてはあるが、実際に補助対象になるものは無かったというものです。

その他として92件、3,471万1,154円の減となっています。予算編成時に率で落としたものや、減額をしたものです。

トータルで1億7,751万2,548円の減。件数は174件になるべきところですが、市観光協会補助金と上水道事業会計補助金が計上替と終了にそれぞれカウントされますので、176件となっております。

【資料の説明】資料5

【事務局】

資料5につきましては、補助金等から計上替した47件について中間提言対応分として整理したものです。

市が主体的に実施すべき事業について補助金としてではなく、市の事業費（補助金以外の項目）に組み替えたものです。

4ページですが、18年度決算額47件、1億2,020万5千円が、計上替により6,247万3千円となり5,773万2,780円の減となっています。

前回の検討委員会のヒアリングを含め、以前からご指摘いただいております計上替についてですが、金額がどのように変化しているのか、計上替をただで金額が削減されていなければまったく意味がないのではないかとのことでしたが、約5,700万円の減となりました。

なお、提言をいただいた時のランクにあてはめ、④の提言額ということで5,761万円と推計しますと、平成21年度計上替額は約6,200万円ですので、比較すると提言額に対し約400万円程不足ですが、達成率では92%となっております。

資料の説明につきましては以上でございます。

【委員長】

有難うございます。

委員の皆さんご意見、ご質問がございましたら。

【委員】

税金等の不足という部分で当然起きてくる市全体の予算の収縮というものもある意味全体的な動きとしてあると思う。補助金以外の一般行政経費についても同じ位の率で縮小しているのか。補助金だけ突出して小さくなっているのか。

【事務局】

予算編成中ではありますが、一般行政経費についても税金の落ち込みに見合った形での計上になるのではと思いますが、補助金についてはそれとは別の観点から見直しをしておりますので、率からいいますと削減の幅は大きいと思います。

【事務局】

議会の特別委員会からも、補助金の効率的な運用について提言を受けています。

【委員】

21年度の予算要求の再提出ということで、見込額もかなり減額されている。そのような中、Dランクであるが、一気に廃止が困難なものについては、18年度基準で21年は50%削減、22年度で廃止する方向とのことだが、市傷痍軍人会補助金と市遺族会補助金については、当初の見積額よりも若干増えている。本来なら廃止されるべきものが、当初の要求より増えて再提出されたというのは特別な理由があるのか。

市傷痍軍人会補助金は当初見込額では18万6千円が再提出では19万2千円、6千円増えている。市遺族会補助金は157万8千円が再提出では162万3千円、45千円増えている。

18年度の決算額との比較では25%減ということで、何か特別な理由があるのか。

【事務局】

21年度当初要求は昨年10月の検討委員会にお示しをして、ヒアリング等もしていただきました。その後、ヒアリングの結果等を受けまして、市長から再提出の指示がなされました。

両事業とも内容的には縮小されますが、隔年の事業開催などにより、当初、担当課ではこの位

削減しようとしてきましたが、内部又は団体との協議の中で若干増えて来たようです。
最終的には市長による補助金所管課とのヒアリング等を経て決定されています。

【委員】

食事代についてですが、一日を通し行うイベントのような時に、基準額で700円でしたか。

【事務局】

食糧費を補助金の対象経費にできるものは、1日を通して行うイベント、事業の場合としていません。各補助金交付要綱にも食糧費については1日を通して行うものと記載しています。

【委員】

資料5の3ページ、通番39の消防団幹部研修補助金、所管課は坂東消防署です。
計上替になったので我々の対象外になっていくのかもしれませんが、提言ではDランクで廃止のものが、21年度の計上替額では18年度の決算額より増額されている。
可能であれば理由の説明をお願いしたい。

【事務局】

確かに金額的には増えておりますが、研修に行くための旅費という形で計上したということです。補助金ではなく費用弁償という形なので、個人個人に研修の実費として支給するという形に計上替をしたものです。

【委員】

当時の使われ方からDランクに入ったという経緯もあるのだろうが、提言額としてはゼロとなっている。今後、こういったものはどう扱っていくべきなのか多少クエスチョンなものがある。
使い方が変わったのでOKという形にするのか。もしくは、そうじゃないよという形にするのかと、考え方の整理が必要だと思う。

【委員】

広域消防のものか。

【事務局】

非常備消防ですので、坂東市の消防団のものです。

【委員】

予算を主管するのは坂東消防署ということか。

【事務局】

補助金の交付先は非常備の消防団。
昔からの経緯があり事務処理が消防署となっています。

【事務局】

確かに委員さんがおっしゃられるように提言ではゼロです。
通常は18年度当時の補助金よりも計上替して下がるか、若しくはこの後ゼロにしていくのかという議論にはなってくると思います。それが本当に必要なのかどうなのかも。そういう事業の選別作業を当然やっていきます。

【事務局】

消防団の方は確かに大変な命懸けの場合もありますし、そういった面から言えば、それだけの手当が必要だろうと。今まで補助金から支出していましたが、個人個人に実費支給すべきとの考えから費用弁償に計上替をしたものです。
37番の消防ポンプ操法大会補助金も同じように費用弁償に改めました。

【委員】

計上替により大分一般行政経費の方に移ったので補助金が減額されたとなっている。
ここは補助金の会議ですが、坂東市の全体の予算の中に補助金があるのだから、単に補助金の分を一般行政経費の方に計上替したから、だから補助金が減ってよかったというわけにはいかないと思います。

【事務局】

以前からご指摘いただいている部分ですが、そっくり同じ額の計上替ではプラマイナスゼロなだけで、補助金だけが減っても市全体としては減らない、それでは計上替をしても意味がないのではないかと。

資料5の4ページにあります。計上替により1億2千万円だったものが6千2百万円となり、約5,700万円減額されております。

【委員】

減額してもやっていけるということで、計上替する時に減らしたということなんですね。

【事務局】

提言をいただく前には補助金の交付基準も無かったので、補助金を受ける団体からすれば、ややもすると自由に使っていいというような、そういった感覚もあったように感じます。

ですから、今までの補助金と同じような使い方ではなく、交付基準に合った形のものということで、各補助団体と所管課は交付基準や交付要綱の作成の段階から協議し、食糧費の取り扱いについても協議をしていますので、団体のかたも意識を持っていただいていると思います。

【委員】

計上替というのは、市が主体的に行うということであり、金額的にも減額されているということなので、十分説明できるという結論なのですね。

【事務局】

そのような形で説明させていただきました。

提言の5,700万円に対し6,200万円ということなので、400万円程達していませんが、それに近い92%の率で削減されています。

【委員】

見直しにより補助金から一般経費に入っているということに関しては、理解を得られる要因にはなるのではと思う。

【委員】

計上替の中で9番わんぱく探検隊補助金、12番将門まつり経費、32番ふれあい交流事業補助金、34番春季点検式交付金などについて、単価は700円相当であると思うが大きな食糧費が上がっている。

予算の再提出の中で削減はどこで図られたのかを見ると、補助率を何年経過したらいくにするなどの工夫がされていた。

それと同じように、食糧費が700円でできない部分については一律の単価を決めるなど、食糧費も削減を図るように努力してもらいたい。

【事務局】

食糧費を700円とする補助単価については、予算編成方針を根拠としています。

【委員】

32番ふれあい交流事業の24万6千円、34番春季点検式交付金では37万1千円が食糧費となっており、消耗品費や借上料などの事業費と比較すると突出して大きい。

【事務局】

32番のふれあい交流事業については、ふれあい農業祭というイベント時のものです。

【委員】

イベントの事業の中の材料費などということか。

【事務局】

スタッフの弁当代です。

【委員】

食糧費というのは言葉では誤解を受けやすい。

食糧費というと、宴会費も含むのかと思ってしまう。

【事務局】

個別の補助金交付要綱では、1日を通して行うイベント時の弁当代としています。

【委員】

予算に窮した場合に削ることが出来るのは食糧費では。

まだ余裕があるから弁当を出せるので、本当に困っていたら弁当も出せなくなるのでは。

【委員】

考え方の話ですが、今回計上替により補助金から大分移ったかと思えます。今後も計上替の方向なのか。自治体によっては市民活動の促進など図っている。要は行政から市民団体の方へ移管するといった、より自主的に地域活動をしてもらうような方向性も一つなのでは。そういったものに補助金として出していくなど、そういった形のストーリーというものもあると思う。

計上替にて移ったものの、そういった流れから考えた時に、また補助金の方に帰すなどの仕組みを含めて考えなくてはいけないと個人的には思っています。

【委員長】

今日、我孫子市さんで、是非、お聞きして欲しいと思えます。私も、どちらかというあまり行政が関わるよりは、オープンにすることによりモチベーションの高い、アクティブな人に市民行政との協働というものをやってもらった方がいいと思ので、補助金から一般経費の方に出せるものは出してもらっていいと思う。

坂東市さんは申し訳ないですが、今回は今まで整理されていなかったものを整理したという段階で多分ここからが出发点になるのではと思っている。

委員のご意見はいいと思えます。

【委員長】

本日の議題は1と2ですが、3のその他として、中期的にどうすべきかとの議論をしなくてはならないと思えます。

我々委員会は3年が任期なので、来年度で一応任期が終わるので、その時には、是非、中期的な提言を出せるかと。

【委員長】

金額の削減が目標ではないと思うが中間提言の7,800万円に対し、最終的にはどの程度達成できたのか。

【事務局】

資料4の10ページ、その他の3,471万1,154円と計上替の一番上の45件の3,990万3,780円分を合わせますと、約7,400万円。その辺の金額が減額になっているものと思えます。

【委員長】

7,800万円が7,400万円だから、大体、中間提言と同程度落ちたと理解してよいのか。私の計算だと5,700万円かと思った。最終的にどの程度落ちたことになるのか。

【事務局】

実質的に削減されたものを整理いたします。

【委員長】

個人的には大分整理出来ていると思う。本数も100本位に落ちたし金額もかなり落ちている。使途が厳しいという一般経費に移ったという意味でもかなり整理されたと思う。

先程、委員がおっしゃったことに関係するんですが、今後どうすべきかについて何かありましたら。今までの2年間のことや今後どうすべきかなどの意見があれば。

【委員】

公募制にした時に、いわゆる市民活動というかそういったものを育てていくという活動も、一方でやっていかななくてはならないと思う。仕組みづくりも含めて。我々の範囲とは違うでしょうが、本来行政としては考えていかななくてはと思う。協働のまちづくり推進条例の策定など。

【事務局】

市民と協働しながら行政を進めていくのがいいと思えます。

組織的にも坂東市の場合にはそういうセクションがありませんので、そういう受け皿づくりから進めていかなければならないと感じています。

本来ここは補助金の検討委員会ですから補助金だけを見ますが、そういう視点から、まちづくりや、協働を考えるようなセクションに移管できたらと考えています。

【事務局】

先進的な大変良い中間提言をいただきながら本当に遅くなりました。

振り返って見ますと、交付基準に沿った交付要綱を20年度に作ろうと4月、5月から要綱づくりを各課に指示をしてきましたが時間がかかりました。また、基準が今まで無かったので、各課、各団体の方に理解をしていただくにも時間を要しました。要綱も補助率を二分の一にとの制約もありましたので、自分達の財源確保などについて団体としても悩んだようです。要綱作りや団体との調整的なものがなかなか大変でした。

市では以前から額の見直しはしていましたが、今回のように本当に必要なものなのか、効率的に使われているかとの検証はされていませんでした。既得権となっているようなものや交付基準や交付要綱に照らすと対象外になるものがありました。

提言では4段階のランクをいただきましたが、前回の補助金のヒアリングの結果でしたので、市長から中間提言の考え方を尊重した21年度予算編成となりました。

当時は7千万円強の提言でしたが、実質的な金額ベースでは委員長の方から5千万円とのお話しもありましたが、実質的、金額ベースで見るとその他の3,500万円位減ったと思います。

【事務局】

20年度の作業としては進み具合が遅かったですが、額的な整理はできたと思います。

また、これから重要になってくるのはチェック体制だと市の方も思っていますし、21年度の予算が公表になった時点で市民からまた意見等があるかもしれません。

【委員】

次のスケジュール、今後の進め方のイメージがあれば教えていただきたい。

イメージの共有をしたいと思います。

【委員長】

最終的には方向性を提案できればと思う。大分整理されたし、また、視察も含め他の自治体の見直し内容、そういう面を加味しながら、坂東市に見合った、この地域だからこそという制度を作るのかなって思っています。

【事務局】

補助金の見直しについては戻ることはありません。議会からも提言書も出ていますし、行革の観点からも戻ることなく前進していきたいと思います。

【委員長】

今日の議題はこれで終了したいと思います。

事務局の方にお返しします。

【事務局】

次回の委員会の日程につきましては、委員長と協議をさせていただき、皆さんにご連絡させていただきますと思います。

【事務局】

朝早くからご集合していただき有難うございました。ある程度整理されたということで、市の方でも一つの区切りができたのかなと思います。ただ、これからは補助金見直しの重要な所に入ってくると思います。今年度最後の委員会かもしれませんが、そういうことで宜しくお願いします。午後の視察では事務局も一緒に勉強させていただきたいと思います。それでは、長時間に渡り有難うございました。